



男女共同参画に関する意識調査（ダイジェスト版）



市民のみなさまには、日頃から市政にご理解、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

八千代市生涯学習部男女共同参画課およびセンターでは、男女共同参画社会の実現に向けてさまざまな取組を市民のみなさまとともに進めております。

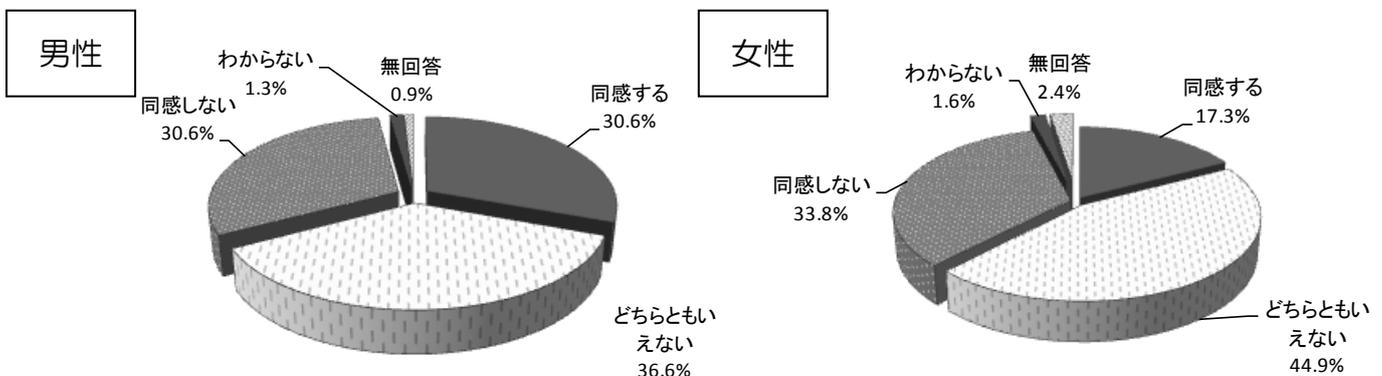
このたび男女共同参画課では、「男女共同参画に関する意識調査」を実施しました。この調査では、男女共同参画センターの利用団体および市内の公民館サークル会員、1・2歳児親子学級、家庭教育学級に参加のみなさまに、日常生活や仕事に関する実態や意識、また男女共同参画に関する考え方などを伺いました。これらを整理・把握することで、今後の取組の資料とし、今後の情報提供や施策へ反映させていくことを目的としています。

調査の対象	9 公民館及び男女共同参画センター利用者(男女)20歳以上の 2,007人(無作為抽出)
調査の方法	各公共施設の職員を通じて配付－各施設の回収箱による回収
調査の期間	平成19年9月1日～10月20日
回収状況	有効回答数 690件 有効回収率 34.3%

※「男女共同参画社会」とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、それにより男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」(男女共同参画社会基本法の定義より)のことです。

性別による役割分担意識について

◎「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。



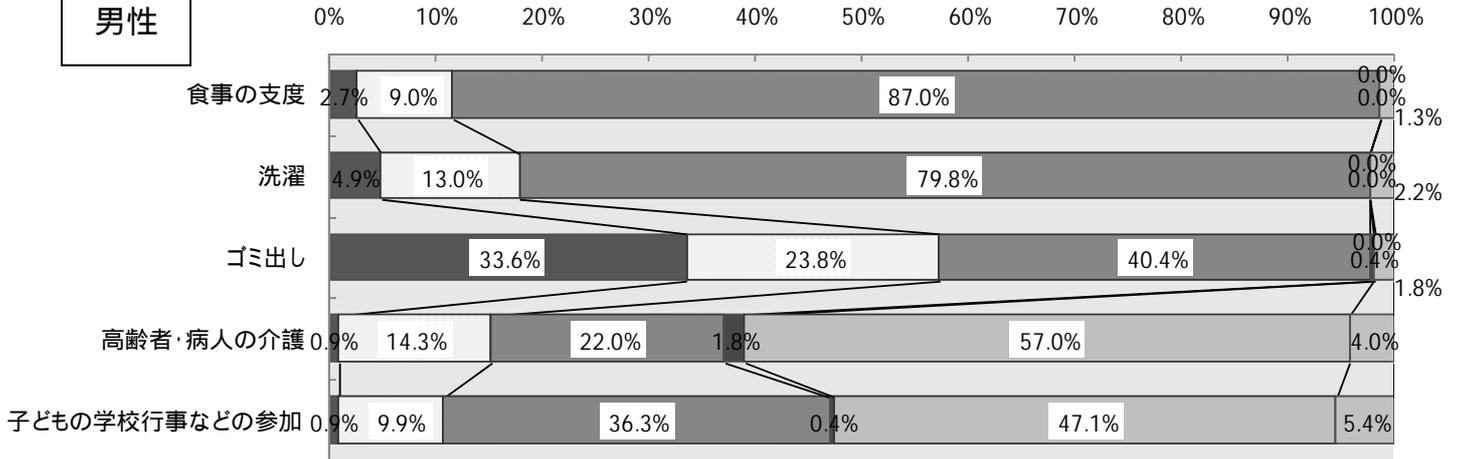
☞「男は仕事、女は家庭」という考え方に対しては、「どちらともいえない」の回答が男性も女性も多くなっていますが、女性では、「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感する」より、「同感しない」は2倍近く多いです。また、男性では、「同感する」と「同感しない」が同じ割合となっており、こうしてみると男女ともに3割以上が「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しないとしていることが分かります。

家庭内の仕事について

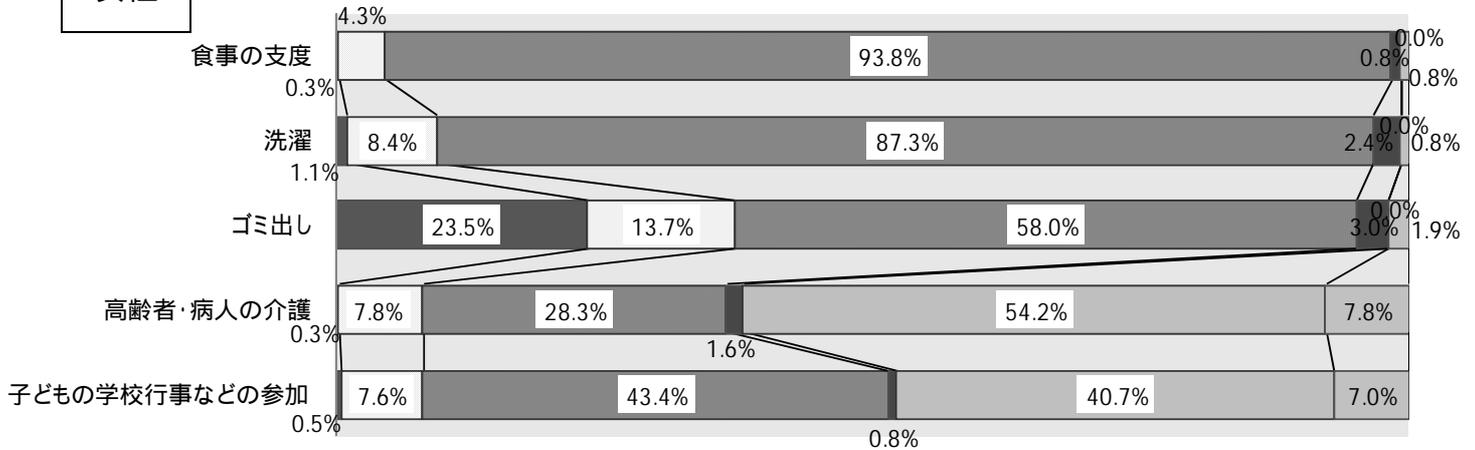


◎ 具体的な家庭内の仕事に、あなたの家庭ではどのようにかかわっていますか。

男性



女性



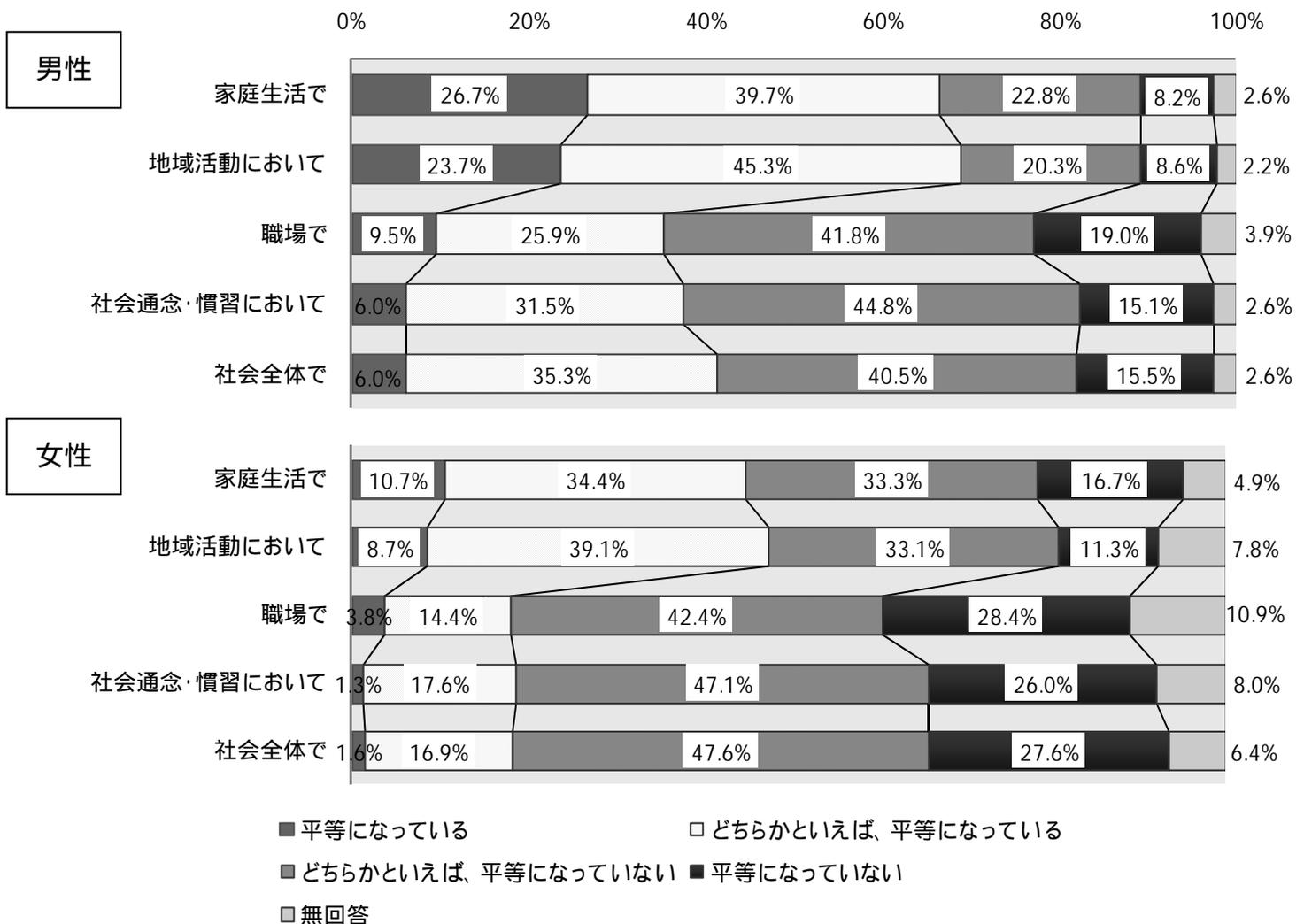
■主に夫 □妻と夫が同程度 ■主に妻 ■その他の人 □該当しない □無回答

☞ 5つの項目からみて、「食事の支度」「洗濯」「ゴミ出し」は、男女とも、「主に妻」が1番高い割合です。中でも「食事の支度」は、男性も女性も「主に妻」の割合が1番ですが、「洗濯」と「ゴミ出し」は、男女ともに、「主に夫」や「妻と夫が同程度」が次に高くなっています。一方で、「高齢者・病人の介護」と「子どもの学校行事などの参加」は、男性も女性も「該当しない」の割合が1番高いですが、2番目に高い回答では「主に妻」が続いています。



男女の地位の平等感

◎ 男女の地位が平等になっていると思いますか。

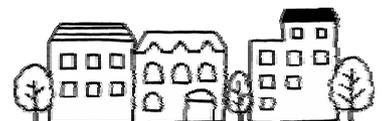


☞ 「家庭生活」、「地域活動」、「職場」、「社会通念・慣習」、「社会全体」の5つの分野からみて、男性の場合は、「平等になっている」が高い項目は、「地域活動において」と「家庭生活で」となっています。一方、「平等になっていない」が高い項目は、「職場で」が1番で、次に「社会通念・慣習において」が続き、5割から6割の男性が平等になっていないと回答しています。

女性の場合は、「平等になっている」が高い項目は、「地域活動において」で、次いで「家庭生活で」となっていますが、「平等になっていない」の割合と比べると、「家庭生活で」は「平等になっていない」の割合が高くなります。さらにみていくと、「平等になっていない」の割合が高い項目は、「社会全体で」が1番高く、次いで「社会通念・慣習において」で、3番目が「職場で」となっています。よって、この三つの項目については、男性も女性も、6割から7割以上の今回、回答した市民がまだまだ平等になっていないと思っているようです。

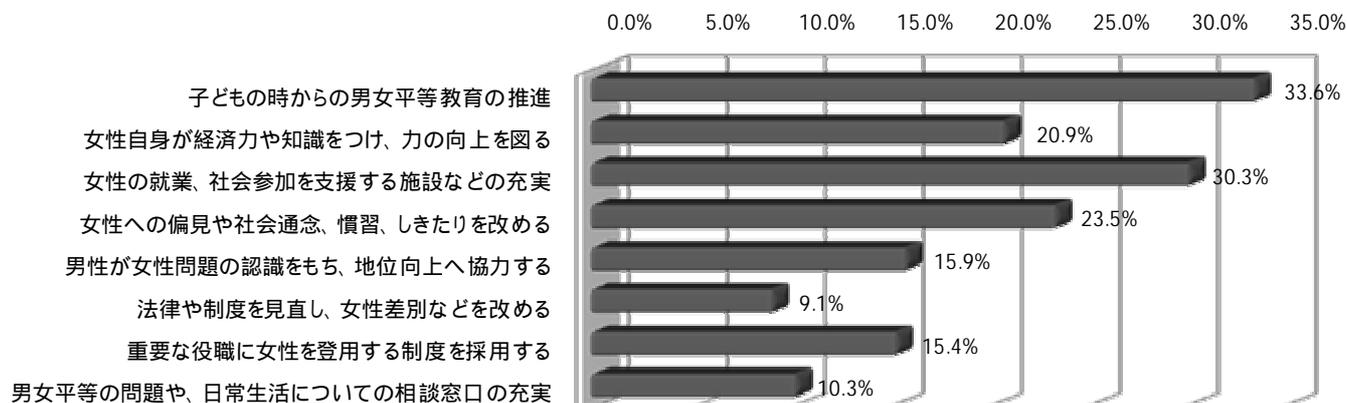
* 「平等になっている」 = 「平等になっている」「どちらかといえば、平等になっている」を合算

* 「平等になっていない」 = 「平等になっていない」「どちらかといえば、平等になっていない」を合算



男女共同参画に関する取組

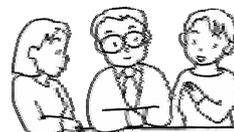
◎ 今後、八千代市に力を入れて欲しいと思う取組はなんですか。



☞ 男性と女性の合計の割合で見ると、男女が社会のあらゆる分野で豊かにくらすために市に力を入れて欲しいことは、第1に「子どもの時からの男女平等教育の推進」が最も割合が高く、第2に「女性の就業、社会参加を支援する施設などの充実」が高い割合で、次いで第3位に「女性への偏見や社会通念、慣習、しきたりを改める」が続きます。上位3項目となっております。

これらのことから、家庭・学校などにおける子ども達への教育の推進や、就業や社会活動等に関する情報提供、学習機会の提供などを引き続き実施していくことが必要な取組と考えられます。

今後に向けて



今回の調査は、男女共同参画センター及び市内9つの公民館を利用している方々に協力をお願いして実施しました。690の回答は、男性が33.6%で、女性が65.2%でした。年代は20歳代から80歳代以上までで、多かったのが、60歳代37.4%で、次いで70歳代、30歳代が17.4%で、50歳代12.5%、40歳代11.0%と続いています。回答者のお住まいの地域は、市外を含み15地域の方の回答がありましたが、割合の高い順は、「八千代台」「大和田新田」「大和田」「勝田台」「村上」「高津」「ゆりのき台」と続いています。参加している活動は、「公民館サークル活動71.2%」、次が「1・2歳児親子学級13.6%」、次いで「家庭教育学級7.5%」、「男女共同参画センター利用者6.5%」となっております。今回、当課の職員が手作りで取組んだ意識調査に、日頃、公共施設をご利用されている市民のみなさまにご協力いただき、集計することができました。これらの集計結果は、さらに次の各種調査実施に反映させ、また今後の男女共同参画の取組—学習機会や情報の提供等—to活用させていただきます。有難うございました。今回の全項目の集計及び報告は、公民館・図書館・男女共同参画センター及び情報公開コーナーに配布しますので、ご覧ください。また、ダイジェスト版については、公民館等を通じて、市民のみなさまに配布します。あわせてご利用ください。

発行日：平成20年3月

発行：八千代市生涯学習部男女共同参画課(八千代市男女共同参画センター内)

連絡先：八千代市八千代台南1-11-6 電話：047-485-7088